

CJST Standard_Sample(抜粋)

Level	Function	Text type	Grammar	Pronunciation/Fluency	Honorific	
12	Superior	社会問題や政治問題などの話題について意見を明白にし、意見を裏付けるための議論を展開できる。	複段落を作り、一環した内容の流れを保つことができる。	複雑な構文に散発的なミス(運用上の間違い)は有るが、コミュニケーションに支障はない。	発音・アクセント・イントネーションは自然で、誰が聞いても分かる。	発話状況・内容に応じた話体(常体・敬体〔尊敬・謙譲・丁寧〕)の使い分けができる。
11	Advanced-high	議論を展開して、意見に論理的な裏づけをすることができるが、時折、それが描写や叙述に終わる場合がある。	段落の長さで、しかも連続した談話を使いながら、スムーズにコミュニケーションを維持できる。	複文や、受身形、使役動詞などを含んだ高度な構文を使う際に、まだパターン化したエラーが見られる。	発音などは自然だが、時折(単語によってなど)不適切さが出てしまう時もある。	発話状況・内容に応じた話体・敬語レベルの使い分けに散発的なエラー(能力的欠陥からくる間違い)がある。
10	Advanced-middle	詳細に叙述、描写したり、比較したりできる。誤解や混乱を聞き手に与える事なく、意図した内容を伝える事が出来る。	段落を保ってスムーズに会話を続けられる。単文から重文、複文まで、多様な文の構造を効果的に使い分けすることができる。	複文や、受身形、使役動詞などを含んだ高度な構文を使う際に初歩的なミスが見られるが、基本的にはしっかりした文法力を持っている。込み入った構造の文を作る時は、文法を意識しながら話さないと正確さが保てない。	時折、言い馴れていない言葉や、長文が言い辛い事があるが、基本的にリズムやイントネーション、感情を表現するときの声の使い方なども自然である。	尊敬語・謙譲語の使い分けをほぼコントロールできる。尊敬語・謙譲語の選択ミスはなく、活用ミスも散発的。ただ、相手に合わせた敬語のレベルをコントロールするのは難しい場合があり、時に、過度に丁寧になったり、逆に敬語のレベルが低くなったりすることがある。
9	Advanced-low	日常生活で自分に関わりのある事について、詳細を述べる事ができるが、言語的に難しい場合には、回りくどい言い回しや、言い換えなどをしばしば使う。	段落を保てるが、せいぜい一段落どまり。全体的に発話量は多いが、同じ構文を何度も繰り返すなど、使用する文の構造にやや偏りがある。	主な時制の枠組みが使える。複雑な構文を話すときにエラーが見られるが、エラーに対しての自己訂正ができる。	非常に詳細な説明を求められた場合など、言葉を探しながら話したり、ぎこちない話し方になることがある。発音は、外国人の日本語に慣れていない人にも分かるが、比較的軽度の母語の影響が感じられる。	尊敬語・謙譲語・丁寧語の選択ミスが散発的にみられ、活用ミスはまだある。
8	Intermediate-high	発話の中に自分の経験談を交えたり、背景を詳細に話したりするなど、一歩進んだ発想で話を進めることができる。ただし、話題によってはうまくまとまらない。	単文、複文を使いこなし、時には段落で話すことができるが、話題が広がってくると、段落としてのまとまりがなくなる場合がある。	簡単な構造の文章ならば、大きなミスすることなく話す。センテンスが長くなると、小さなミスが重なって相手の理解を妨げることもある。言い直しや自己訂正をする姿勢が見られる。	上級より上の言語機能(例:「詳細な理由づけをする」「意見を述べる」など)を使ったり、身近ではない話題を話したりする時には繰り返しや言い直しが見られる。	尊敬語・謙譲語・丁寧語を使おうとするものの、選択ミス、活用ミスが頻繁に見られる。
7	Intermediate-middle-2	身近な事に関しては、余裕を持って話を膨らませながら話することができるが、提供する情報が十分ではない場合がある。	文と文の論理的なつながりを意識しながら、接続詞を使ってまとまりのある話をするが、場合によっては、簡単な文で答えられるところを無理に長く話そうとして複雑になるなど、不自然な部分が多くなる。	簡単な構文は間違いなく話することができるが、時に時制を間違えることがある。接続表現に間違いがみられる。	日常的な内容や得意な分野では滑らかに話せるが、込み入った内容を話したり、難しい構文を使ったりしようとする、言い直しや繰り返し、つなぎ言葉がかなり多くなる。発音には母語の影響がまだあるが、相手の理解の妨げになるほどではない。	「です・ます」の形を保って終始話することができる。尊敬語・謙譲語の形を変えようとする意図が見られる。
6	Intermediate-middle-1	質問に対して、具体的なことをわかりやすく答えることができる。言いたい事をすべて言うことはできませんが、相手に提供する情報はかなり多くなってきている。	身近な話題からやや一般的な事まで、自分で文をクリエイトしながら話し続けることができる。しかし長い文で話そうとすると不自然になったり、極端に発話の流暢さが落ちたりする。	一文一文は簡単な構造の文章だが、大きなミスすることなく話している。接続表現にメジャーエラーが多く、活用にも散発的なエラーが見られる。	身近な事に関する短い文であれば滑らかに話せるが、内容が少し複雑になったり文章を長くしようとしたらすると、途端に流暢さが落ちてしまう。	「です・ます」の形を保って終始話することができる。しかし、尊敬語・謙譲語に形を変えることはまだ難しい。丸覚えした定型句(「私は〇〇と申します」「××から参りました」など)を使うことができる。
5	Intermediate-low-2	自分の身近な事については、簡単な理由の説明や描写を交えながら現在形で話すことができる。時々、聞かれた事以上の付加的な情報を自分から提供することもある。	文単位で話しており、自然に簡単な接続詞を使うことができる。ただし、使っている文の構造は単文が中心で、発話が単調になりがち。	簡単な構文の文ならば大きなミスすることなく話せる。しかし、複雑な構文になると、間違いが多い。	言い慣れた短い簡単な文はとぎれずに話すが、そうでないと発話の途中で、何度も繰り返したり、言いよどんでしまう。	発話の間、始終「です・ます」で話すことはできないが、話そうという意図が見られる。尊敬語・謙譲語に形を変えることはできず、敬語の特別な形や、定型句もほとんど覚えていない。
4	Intermediate-low-1	身近な事柄に関する質問に答えることができる。しかし、答えた事に関してさらに詳しく説明しようとしても、なかなか話を完結させることができず、途中で切れてしまうことがある。	自分なりに短い単文を作り、文のレベルを保つことができる。	基本的に文単位で話しているが、トピックや言語機能(例えば「説明する」、「描写する」など)によっては、活用ミスなど初歩的な間違いが頻繁に見られる。	発音などが母語の影響を受けている。努力しても不正確な話し方になるので、言いよどんだり、自己訂正したりする。	発話ではセンテンスを保つことができるが、時折、友達に対するような表現が混じる。尊敬語・謙譲語に形を変えるはできず、敬語の特別な形や、定型句もまだ覚えていない。

3	Beginner -high	身近な話題については、何とか答えられるが、身近でない話題になると、何も答えられない場合が多く、答えたとしても短く言葉を返すのみにってしまう。	生活するのに最低限必要な、限られた話題・タスクについて話すことができるが、文レベルを維持できない。	習った語句に、対話相手から聞いた語句を組み合わせる程度はできる。語順がバラバラになる、主語や動詞が抜けるなどの初歩的な文法の誤りが発話全体に頻繁に見られる。	丸暗記した簡単な表現は比較的滑らかに出てくるが、自分の言葉で文を作らなければならない場合は言い直しや繰り返し、つなぎ言葉が多くなり、時には黙りこんでしまう。	
2	Beginner -Middle	質問に対してかろうじて答えることができるが、話を持続させたり、自分から会話を始めたりすることはほとんどない。	不完全なセンテンスや簡単なセンテンス、単語の羅列や短いフレーズなどで話す。時には丸覚えしたフレーズやセンテンスを、多少アレンジして答えることができる。	暗記している文は正しく使えるかもしれないが、自分で文を組み立てると、正しいセンテンスはほとんどない。	単純な語彙を探すのにも言葉が途切れ、非常にゆっくりした話し方になる。	
1	Beginner -low	よく慣れたきっかけがある場合は、簡単な挨拶や、自分の名前を言うことができる。真の意味での会話のやりとりはできない。	単語ひとつ、または単語の羅列や短いフレーズのみでセンテンスは作れない。「わかりません」「私の名前は〇〇です。」などの暗記したものは、センテンスとはみなされない。	覚えた単語やフレーズで話すだけで、文型はまだ使えない。	しばしば会話が途切れる。言葉を探して沈黙したり、母語を使ったりする。	